



73. ホタテガイ *Mizuhopecten yessoensis* (Jay)

図版30

英名 giant ezo scallop, Japanese scallop

露名 フレベシヨク  
гребешок

地方名(北海道) ホタテ

漢字 ほたてがい  
帆立貝

アイヌ語名 サラカピー、アッケテク、アシケセイ

【形態】 殻は扇形で、右殻は左殻より大きくかつ膨らむ。殻表面の放射肋\*は左殻では細く、右殻では太く、いずれも18~28本。左殻の肋の表面にはうろこ状の微刻がある。殻頂\*の前後に大きな耳状部があり、背縁は直線状。殻表の色は、左殻は一般に茶褐色から紫褐色であるのに対し、右殻は黄白色。殻の内面は白色。通常二枚貝の貝柱(閉殻筋\*)は2つだが、ホタテガイは中央に大きな貝柱を1つだけ持つ。貝柱はふつう白いが、まれに色素のカロチノイドを多く含みオレンジ色になる。殻高\*約20cmに達する。

【生態】 千島列島、サハリン、日本北部、朝鮮半島北部に分布。国内の南限は、富山湾と千葉県。漁業生産が多いのは北海道と東北地方。水深10~70mの砂泥か砂れき\*の海底に、右殻を下にして砂をかぶって生息する。波の穏やかなサロマ湖や能取湖<sup>のどろ</sup>などでは、水深2mくらいの所にもすむ。

4～6月に水温4～8℃で産卵する。ホタテガイは雌雄異体\*だが、天然貝では0年貝と1年貝はすべて雄で、2年貝以上ではほぼ半数が性転換\*して雌になる。一方、放流貝\*と養殖貝は成長が良いため、1年貝で性転換するものもある。抱卵数\*は4年貝で約1億粒。卵巣はピンク色、精巣は白色。まれに赤と白のモザイク状になった生殖巣を持つ雌雄同体\*の個体もある。産卵後は、生殖巣が透明になり雌雄が分からなくなる。

海水中で受精し、生まれた幼生\*は約35日間浮遊した後、殻長\*約0.3mmで海底の砂やれき\*、養殖施設などに足糸\*で付着する。付着後、成長が著しく速くなる。約2～3カ月後には殻長が10～20mmになり、足糸を切って海底生活に入る。

天然貝は4年でほぼ殻高12cm、重量200～250gになる。寿命は約10年。養殖貝は水温が高く餌の多い水深帯に垂下されるので成長が速く、2年ほどで殻高約11cm、重量150g前後になる。ただし、成長は場所や年により差がある。殻の成長は春と秋に良く、夏と冬に一時止まる。夏に成長が止まるのは高水温や産卵後の活力低下のためとされる。成長が止まる時に殻表にできる成長輪\*で年齢が分かる。海水をえらでろ過し、植物プランクトンやデトリタス\*を餌とする。生息水温は-1.5～23℃。オホーツク海ではホタテガイの代謝は水温18℃で最も活発で、それより高くても低くても鈍る。

外敵生物の代表格であるヒトデ類の触手\*が体に触れると、耳状部のすき間から海水を噴射して逃げる。